

薬く包や紙ほう

一般社団法人岐阜県薬剤師会
揖斐郡薬剤師会

会長 廣瀬 彰

気が付くと、今年もあと1か月です。

ところで皆さんは国民医療費がどのくらいか、ご存知でしょうか。国の発表した平成25年度の国民医療費は総額40兆円を超えています。

皆さんが病院や薬局で支払う金額は3割、2割、1割負担と色々な方がみえますが、身体障害者、生活保護の方等もいらつしゃつて、平均での窓口負担は1割となります。すると、残り9割が保険と税金ということ。このことを頭に置いていただきたいのです。

年々の医療費増加に歯止めをかける為に、国はジェネリック医薬品の使用を推進しています。

ジェネリック医薬品を日本語にしておすと後発医薬品と言います。後発というと、先発もある訳で、先発医薬品というのが最初に開発された医薬品です。

長い期間と膨大なお金を使つて開発した薬ですから、ある程度(今は10年間)は特許期間があるため、他の会社を作っても発売することが出来ません。特許期間が

みんなで出来る医療費削減

切れると、同じ成分を使つて医薬品を発売することが出来ます。それがジェネリック医薬品です。開発費がかかつていないため、同じ成分でも低価格で発売出来るということ。もちろん効き目は同等と厚生労働省が認めています。

しかし、ジェネリック医薬品について話をしようとする、健康食品でも売りつけられると思われるのか話も聞いていただけない方、あるいは私がお金があるから安い薬は使いたくないという方、安くなら変えてほしいと言われる方が様々です。

その中には、こちらが「200円安くなります」と言うと「200円位なら変えたくない」とおっしゃる方もみえます。ですが、200円下がるといふことは、1割負担の方なら全体の医療費が2千円削減できることになります。皆さんにジェネリック医薬品を使つていただくことで、今後の保険料の値上げを抑えることが出来ます。

どうぞお気軽に、病院でも薬局でも「ジェネリック医薬品」について相談ください。